

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人千葉県文化振興財団	
施 設 名	千葉県文化会館	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業	
内定額(総額)	17,167	(千円)
公演事業	3,760	(千円)
人材養成事業	13,407	(千円)
普及啓発事業		(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	読売日本交響楽団 特別演奏会	2018年6月2日	出演：指揮／井上道義・チェロ／ 宮田 大・管弦楽／読売日本交響楽 団	目標値	1,300
		千葉県文化会館 大ホール		実績値	1,285
2	コンドルズ千葉公演2018	2018年10月21日	出演：コンドルズ・小学生・障がい 者が対象のダンスワークショップ 参加者	目標値	1,200
		千葉県文化会館 大ホール		実績値	1,046
3	見る、知る、伝える千葉 ～創作狂言「里見八犬 伝 其ノ式」～	2018年12月16日	曲目：第1部 狂言「雷」 第2部 創作狂言「里見八犬伝 其 ノ式」	目標値	200
		千葉県文化会館 小ホール		実績値	235
4	ちば文化の森フェスタ	2019年1月26日	体験イベント／展示イベント／ アート(art)イベント／イート (eat)イベント／サテライトイベン ト	目標値	2,000
		千葉県文化会館 全施設		実績値	1,090
5	北総四都市文化紀行 江 戸芸能館in佐倉	2018年12月22日	出演：桂竹千代・林家三平	目標値	750
		イオンタウンユーカリが丘		実績値	延べ750
6	北総四都市文化紀行 ク ラシックで書in成田／和 妻wazumaわずまin成田	2018年11月3日 2019年1月18日	出演：エマニュエル・ジラル (ヴィオラ・ダ・ガンバ、チェロ 奏者)・小倉萌子(ヴィオラ)／ KYOKO(和妻師)	目標値	-
		成田山書道美術館 成田国際空港		実績値	延べ500
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	5,450
				実績値	4,906

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	千葉県少年少女オーケストラ育成事業	2018年4月4日～ 2019年3月30日	音楽監督：佐治薫子／音楽トレーナー：国内のプロオーケストラに在籍している演奏家 他	目標値	160
		千葉県文化会館 練習室・大ホール		実績値	160
2	トーンハレ・デュッセルドルフ・ユースオーケストラ 千葉県少年少女オーケストラ 交流コンサート	2018年8月26日	出演：指揮／角田鋼亮、エルンスト・フォン・マーシャル	目標値	1,760
		千葉県文化会館 大ホール		実績値	1,764
3	千葉県少年少女オーケストラ東京公演	2019年3月24日	出演：指揮／井上道義・ピアノ／小曾根真	目標値	1,300
		サントリーホール		実績値	1,839
4	千葉県少年少女オーケストラ第23回定期演奏会	2019年3月30日	出演：指揮／井上道義・ピアノ／小曾根真	目標値	1,760
		千葉県文化会館 大ホール		実績値	1,700
5	千葉県こども歌舞伎アカデミー	2018年9月2日～ 2019年3月9日	講師：帆之巫、藤波靖子、藤田隆之、七々扇左恵	目標値	25
		千葉県文化会館 会議室		実績値	16
6	こども歌舞伎公演	2019年3月10日	演目：長唄七福神～立ち廻り、口上、茶壺、白浪五人男～稲瀬川勢揃いの場、忠臣蔵義士外伝大石東下り～小田原本陣宿の場	目標値	710
		千葉県文化会館 大ホール		実績値	615
7	県民の日記念 第32回若い芽のαコンサート	2019年6月24日	指揮：山下一史／管弦楽：千葉交響楽団／ソリスト：砂田愛梨・本堂誠・清水伶香	目標値	1,790
		千葉県文化会館 大ホール		実績値	1,666
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	7,505
				実績値	7,760

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

地域の中核施設として、下記の3つの項目について充実させるとともに、既存にある地域の「文化資源」の活用や新たな文化資源を掘り起こし発信することで、地域の活性化につなげるという大きな役割を果たしていくための事業展開を図った。

#### ①文化芸術に触れ親しむ環境づくり

子どもから高齢者、障がいの有無に関わらず、県民の誰もが文化芸術活動を始めのきっかけとなるような事業を実施することによる社会包摂的環境の推進。また多様な価値観や多彩な生活環境から生じる県民ニーズに応えるため、文化芸術を鑑賞する機会や情報の提供等を通じて、質の高い「ちば文化」の創造につながる事業を展開。

#### ②伝統文化の保存・継承

多くの県民が伝統文化に触れ、親しみ、さらに次代を担う子どもたちが関心を持つきっかけとなるような事業を展開。

#### ③文化芸術活動を支える仕組みづくり

他の文化施設や行政機関、企業、大学、NPO等と連携して、子どもから高齢者、障がい者など、あらゆる方が参加、交流できる場を提供することで、文化会館が地域の拠点としてのハブの役割となり地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームを形成。また、舞台芸術や劇場を支え、コーディネートする人材の育成および養成。

また、県民が文化芸術に気軽に触れ親しむことができるよう「楽しむ・育む・伝える」をスローガンに掲げながら、5つの事業ビジョンごとに設定された重点項目に沿って、計画された事業を実施した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

■千葉県の東部および南部地域の県民は、都内まで近い北西部に比べ、文化事業に接する機会が少ないのが現状。このような地域の方々のニーズ等に応えるために、地域の中核施設である千葉県文化会館においては、様々なジャンルの舞台公演や県民が主役となり参加できる事業そして県民が文化芸術活動を始めのきっかけとなるような取組みを継続的に実施し、多くの方が文化芸術に触れる機会をつくり続ける必要がある。

■子どもから高齢者まで、そして障がい者や在留外国人が等しく文化芸術活動に触れられる機会を享受する環境を整える必要があると考え、その理念のもと実施した子どもと障がい者そして実演芸術家とともに一つのステージを創り上げるといった取組みは、今後はもっと範囲を広げながら多岐にわたり展開していくと考える。

■子どもを対象にした人材養成事業では、豊かな文化芸術教育の充実を図るために、個々の技術力を高め、次代の文化芸術の担い手となるためだけに特化するのではなく、音楽を通して豊かな心を持てるような人間性を身につけていくことや和の総合芸術を学ぶことで、礼儀作法や美しい日本語の響きなどを体験し、豊かな感性や創造性、コミュニケーション能力を育んでいくことで社会的にも将来を担う人間となるような取組み方をしていくことが今後とも必要と考える。

■このように多くの県民が文化芸術に触れることができるように裾野を広げていくことで、その頂点に立てるような高い能力を有する専門的人材の確保、育成に繋げることができると考える。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

公演事業においては、下記の7つの重点項目を掲げ、様々なジャンルの文化芸術事業の展開を図り、地域の拠点として、県民が集い、県民に感動と希望をもたらすような取組みとすることができた。特に事業ごとに実施している来場者アンケートでは96%の方に満足またはやや満足という回答を得ることができた。また、すべての事業において、子どもから高齢者、障がい者等にかかわらず、事業の鑑賞および事業への参画ができるな環境を整えることができた。

<7つの重点項目>①芸術性・国際性の豊かな公演の実施 ②子どものための鑑賞プログラムの実施／③入場に年齢制限を設けない公演を実施／④県民ニーズに応える公演の実施／⑤シニア世代の文化活動への積極的な参加を促す事業の実施／⑥伝統芸能に触れることができる鑑賞機会の提供／⑦千葉県の文化資産を活用した事業の実施

人材養成事業では、未就学児から小学生、中学生、高校生へそして大人からシニア世代へと繋げていくように文化芸術の担い手を養成していくというしくみを継続的に実施することができた。特に、千葉県文化会館を拠点に活動をしている少年少女による文化芸術活動では、事業における一定の評価を受けるだけでなく、海外のユースオーケストラや県内の留学生と交流するなど、千葉県における国際文化交流にも貢献できた。

「公認文化オリンピックアード」「応援文化オリンピックアード」「beyond2020プログラム」の認証事業は平成29年度を上回る数の事業を認証事業として実施することができ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成に貢献できたと考える。

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業では、事業費において計画どおりには進めることができなかった事業があった。特に入場券の販売が当初の目標より少なかったことによる収入減が事業費においての計画から大きな変更となってしまった。しかし、子どもから高齢者、障がい者等にかかわらず事業を鑑賞してもらうという財団独自の取組みを活用したことにより、集客については当初の目標に近い数字となっている。また、コンドルズの事業においては、本公演だけではなく、公募により集まった小学生と障がいを持った方たちが一緒になって、オープニングアクトを飾るためにダンスワークショップに参加した。この取組みには多くの時間と経費を費やしたが、それに見合うだけのステージとなっただけでなく、当財団として初めて取組んだジャンルの「コンテンポラリーダンス」そして障がい者の方と一緒にステージを創り上げるという経験は、今回の事業だけに留まることどまらず今後の事業展開に生かせるものとなった。

人材養成事業においては、ほぼすべての事業において事業期間および事業費については当初の計画どおりに推移し適切に事業を進めることができた。特に「千葉県少年少女オーケストラ東京公演」では、日本が誇る音楽の殿堂サントリーホールでの演奏会ということで、通常子どものアマチュアオーケストラが開催する規模としてはかなり大きなもので、事業費もプロのオーケストラの演奏会に匹敵するものでしたが、来場された一般の方から国内の文化施設関係者まで、多くの方々から高い評価を受けることができた。さらに、多くのメディアに取り上げられたこともあり、千葉県少年少女オーケストラの活動とともに、文化芸術事業に取り組んでいる当財団についても全国に周知することができた。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### ■読売日本交響楽団特別演奏会

全国的にも評価の高い「音の響きの良さ」という特性を活かしたオーケストラの演奏会を実施するとともに、在京オーケストラの演奏を千葉県において聴ける機会を提供できた事業となった。

#### ■コンドルズ千葉公演2018

形にとらわれず子どもや障がいのある方にも自由な表現のできるコンテンポラリーダンスに着目し、舞台公演のみならず子どもや障がい者のためのワークショップ、発表への取り組みを「コンドルズ」との協働により、「アウトリーチ公演」「ワークショップを経ての発表」「優れた舞台公演」を交えた社会包摂の新たな形での事業として創り上げた事業となった。なお、令和元年度事業においても「コンドルズ」との協働による事業の実施を予定している。

#### ■見る、知る、伝える千葉 ～創作狂言「里見八犬伝 其ノ弐」～

狂言師の小笠原匡氏の脚本で、千葉大学の学生による大道具小道具の作成、SNSを使った広報、前回までのあらすじを簡潔にまとめた紙芝居の作成、そして公募による参加者や学生が演者として出演するという手作り・参加型の事業。運営は当財団に加え、千葉大学とNPO法人フォーエヴァーの3者が運営委員会を組織して行った。

#### ■ちば文化の森フェスタ

平安時代後期から鎌倉時代に千葉氏の館があったとされる「いのはな山」は、千葉県文化会館、千葉県立中央図書館、千葉市立郷土博物館、千葉交響楽団など文化団体・施設の拠点があり、文化の森と呼ばれている。その文化の森を文化芸術が集まるプラットフォームとして県内の数多くの文化団体や大学、実演芸術家等が一堂に会し、幅広いジャンルの文化が持つそれぞれの特徴や魅力を集約し、かつ連携を図りながら総合的なフェスティバルを創り上げた。

#### ■北総四都市文化紀行 江戸芸能館in佐倉／北総四都市文化紀行 クラシックで書in成田／和妻wazumaわずまin成田

日本遺産に認定された「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」の舞台の千葉県佐倉市、成田市、香取市、銚子市と、東日本大震災で甚大な被害を受け、今もなお復興に向けた取り組みを進めている旭市において、日本と世界の音楽・日本の文化資源を融合したステージを中心に、5つの市がそれぞれ持つ文化の力を繋げながら3年をかけて実施していくプロジェクトの初年度として実施した。

#### ■千葉県少年少女オーケストラ育成事業／トーンハレ・デュッセルドルフ・ユースオーケストラ 千葉県少年少女オーケストラ 交流コンサート／千葉県少年少女オーケストラ東京公演／千葉県少年少女オーケストラ第23回定期演奏会

千葉県少年少女オーケストラは千葉県文化会館を活動および発信の拠点として、音楽監督である佐治薫子氏のもと10歳から20歳までの約160名の子ども達が、世界に通用する高い演奏技術の習得や、豊かな心を持てるような人間性を身につけることを目的に、団員が自らが実演芸術家として国内外で活躍したり、その成果をそれぞれの地域に波及させたり、また実演芸術家を支援育てていくような人材として、将来の日本の文化芸術の担い手・支援者となることができるよう取組み、それらの活動の成果として演奏会が実施できた。

#### ■千葉県こども歌舞伎アカデミー／こども歌舞伎公演

感受性の豊かな子どもの時期に、日本が誇る伝統芸能への興味関心を促し、創造力や感性を養うとともに、和の総合芸術である歌舞伎を学ぶことで、単に歌舞伎の技術的な事柄だけでなく、礼儀作法や江戸時代から伝わる美しい日本語の響きなどを体験する機会を創った。子どもたちには、歌舞伎という素晴らしい伝統芸能を体験してもらい、何かを感じてもらうことで、歌舞伎を将来にわたって保存・承継していくことに繋がることを期待したい。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

千葉県少年少女オーケストラやこども歌舞伎アカデミーにおいては、子どもたちが将来文化芸術の担い手として県内外で活躍する実演芸術家として、あるいは実演芸術家を支え育てていく立場の人材となってもらうために、千葉県文化会館を拠点として多くの子どもたちが活動に参加し、技術力等を高めることができただけでなく、その成果をそれぞれの地域にも波及させていくことができたと考える。  
また、大学（千葉大学・千葉経済大学短期大学部）に職員を講師として派遣し、事業の運営方法などを指導し、実際に1事業を職員とともに創り上げることでアートマネジメント人材の養成に繋げることもできたと考える。

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

■事業計画は、「文化振興基本法」や「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」、「同指針」の基本理念を鑑み、千葉県が策定した「ちば文化振興計画」の精神に則るとともに、当財団が策定している経営計画書に定めている基本方針にしたがって策定されている。

■事業計画の策定にあたっては、各所属の職員からなる企画専門の委員会を設置し、横断的組織により財団全体で取り組んでいる。委員会において検討された内容については随時経営戦略室のチェックを受けながら全体の事業を創り上げ、その後、経営戦略会議への中間報告、最終報告を経て決定される。

■事業は各所属に振り分けられて実施されるが、常に財団全体の取組みとして進捗状況や課題が共有され、支援体制がとられている。また、どの事業においても様々な分野の団体と連携を図りながら実施している。

■事業完了後には、各担当部署において「事業実施報告書」を作成。事務局ではこれを受け、「事業評価表」を作成する。

※「事業実施報告書」…事業内容、成果、アンケート結果、課題、展望、感想

「事業評価表」……………集客状況、事業費状況、1次評価、2次評価、今後の対応

■全国公立文化施設協会・千葉県公立文化施設協議会・ちば文化振興ネットワーク協議会といったネットワークを活用して得た様々な情報を委員会へフィードバックしている。

また、千葉県芸術文化団体協議会の事務局として、文化団体のサポートをするとともに、文化団体の意見等も企画・運営に反映させている。

■上記のPDCAサイクルのほか、事業によっては文化芸術に造詣が深い専門家や実演芸術家、文化芸術に係る大学関係の有識者が事業内容について7つの視点から評価を行う「公演事業評価」を実施している。

■全国公立文化施設協会、千葉県公立文化施設協議会、ちば文化振興ネットワーク協議会といったネットワークを活用して得た様々な情報を企画部門の委員会に提供し、参考としている。また、千葉県芸術文化団体協議会の事務局として、文化団体のサポートとともに文化団体の意見や要望も企画・運営に反映させている。